



大

start oita!

ここから始めるアートな暮らし

ル



市



表紙について

「大」は佐賀関地区の海、「分」は大南地区の町並み、「市」は野津原地区の石畳をイメージしています。

Contents

- 4 大分市はこんなところ
- 6 まずは知ってください、大分市のこと
- 8 アーティストインタビュー
- 15 まちなかアートスポット
- 18 移住おすすめエリア
- 26 移住支援
- 28 アーティスト支援
- 30 Q&A

山があつて、海があつて、川があつて。
そして、温泉まで湧き出る自然豊かな環境。

集積する産業、公共交通、大型商業施設、
程よい都市機能が充実した環境。

便利×自然を兼ね備えた、ちょうどいい街。

そんな贅沢な環境で、

アートとともに過ごす新たな暮らし。

ここ大分市で始めてみませんか？

大分市はこんなところ

about oita

交通アクセス

飛行機(大分空港発着)

東京(羽田) 約1時間30分
東京(成田) 約1時間40分
大阪(伊丹) 約1時間
名古屋(中部) 約1時間10分



●大分空港～JR大分駅
空港バス 約1時間

JR(大分駅発着)

新大阪 約4時間(特急・新幹線・小倉乗換)
博多 約2時間(特急・小倉経由)
小倉 約1時間30分(特急)



フェリー

神戸～大分 約11時間20分
三崎～佐賀関 約1時間10分



市街地

東九州最大の産業都市ながら、豊かな自然も自慢。海、山、川のすべてが揃い、自然と都市環境を有している優れた都市環境を有しています。

大分県の中央に位置する大分市。48万人が暮らす都市は、東九州経済の中心地です。一方、周辺部には高崎山をはじめとした山々が連なり、地域の半分を森林が占めるなど緑も豊かで、漁場としても優れた豊後水道、別府湾などの海や大分川、大野川などの川に囲まれ、自然環境にも恵まれています。気候は瀬戸内海気候に属し、温暖であることも特長です。

交通は、JR日豊本線・久大本線・豊肥本線の鉄道3線に加え、東九州自動車道・大分自動車道と、高速道路も整備され、九州各都市へとつながっています。さらにフェリーなどの関西・四国への海上交通が発達しているのも、九州東端の立地ならではです。

近年では2015年に『JRおおいたシティ(大分駅ビル)』と『大分県立美術館(OPAM)』がオープンし、大型商業施設・芸術文化施設もさらに充実。今後も2019年春、中心部に大型ファッションビルが開業予定です。そのほか、2018年の国民文化祭・障害者芸術文化祭や2019年のラグビーW杯開催を控えており、国際観光都市としてさらなる発展を目指しています。

優れた都市機能と自然の恵みをバランスよく兼ね備えた大分市は、様々なライフスタイルに対応できる、「ちょうどいい」都市なのです。

大分市で暮らす・働く・移る

暮らす

民間賃貸住宅(1K)の家賃相場

3.90万円

ちなみに東京都(港区)は11.23万円



大分市内の温泉施設数

37カ所

※大分市観光戦略プラン/2016年12月
JR大分駅から徒歩圏内に
16カ所が集中!



働く

最低賃金

737円

※大分労働局/2017年10月

有効求人倍率

1.66倍

※大分労働局/2017年10月
ちなみに全国は1.55倍



移る

移住希望地域ランキング2016

全国第7位

※ふるさと回帰支援センター
大分県が全国の上にランクイン!



大分市を訪れる・食する

訪れる

高崎山
自然動物園

約1,400頭の野生のニホンザルが
生息する大分市の顔・高崎山。



大分マリーンパレス水族館
うみたまご

高崎山や別府湾の美しい自然に
囲まれた水族館。



食する

とり天

鶏肉の天ぷら、
ズバリ「とり天」。
大分の郷土料理。



にら豚

大分市特産のニラが特徴。
大分市発祥のソウルフード。



まずは知ってください、
大分市のこと

人口 479,528人



中核市
9番目の
多さ

世帯数 218,573世帯



面積 502.39km²



平均気温 16.4℃



比較的
暖かく、
雨も少ない

※1~3 2017年11月末現在
※4 気象庁/1981~2010統計データ

大分市のいいやん!
情報を発信中

フェイスブックをはじめとするSNSや観
光PR動画等で、大分市が誇る魅力を紹介し
ています。ぜひ、「いいね!」をお願いします。

大分市 ソーシャルメディア

検索

ミニトリップ大分市

大分市の歴史や食、ア
ートなど7つのジャンルに
分けて紹介。5分間のミ
ニトリップをお楽しみく
ださい。



5 minutes Trip Oita City

INTER
VIEW

大分市在住のクリエイターが語る、リアルな「大分市暮らし」。

Naoto Kitamura

カラフルな色彩と、繊細かつ大胆な作品で多くの人を魅了する画家、北村直登さん。今や大分を代表する画家として活躍しているが、もともとは、ブラジル留学を経験するほどサッカーにのめり込んでいたという。「福岡生まれで、福岡の中学を卒業後、1年間ブラジルへサッカー留学して、大分県内の高校、大学へ進学しました」。

サッカー一筋の人生だったが、大学在学中のケガをきっかけにサッカーを諦めた。雑誌のスナップでグランプリを受賞した縁で、モデルや俳優を目指した時期もあり、ある時東京でオーディションを受けるも結果は不合格。その帰り道、表参道の路上で絵を売っている人を見かけた。「あ！次はこれをやってみようと思って。それが絵を描き始めたきっかけでした」。

昔、母親に絵が上手だと褒められたことがあったので、描くことに抵抗はなかったです。

最初はパステルクレヨンのみで描いた絵を、大分市の地下道で販売していた。様々なアルバイトを経験する中、昼夜問わず働く社会人を見て、「これくらい本気でやれば、絵で食べていけるんじゃないかな」と思い、そこから一生懸命絵を描きました。お金はなかったけど、絵だけで食べていくというゲーム性を持って臨んだので、楽しかったですね」と振り返る。大分にとどまっていたのは、自分の人の優しさだという。立ち止まって話し掛けてくれたり、個展に誘ってもらったりと助けられた。その後は販売の拠点を路上からインターネットに

大分の、人の優しさに救われました。

移し、徐々に東京など都市部の有名百貨店の催事に声を掛けてもらえるように。さらに2014年には

ドラマ「昼顔」に起用され、そこからJRの全国キャンペーンなど、大きなプロジェクトにも関わることになった。「でもこれは自分で用意できたチャンスではないので、プレゼントだと思っ てありがたく利用させてもらい、その分を助けてもらった大分に還元しようと思いましたね」。

知名度も全国区となった今、拠点を東京へ移さなかった理由を尋ねると、意外にも大分を出ようと思ったことはないという。「路上で絵を販売していた頃から、大分の画家になれたらいいなと思っていたので。ゆくゆくは僕の絵で大分市に人が呼べるような、観光資源の一つになりたいなと思っています」。

同じようにアーティストとして大分市に移住することに関して、「まず、県外に移住するということは、それまでをリセットできるいい機会。そして大分市は美術に対し歴史や造詣がある街なので、外から来た人の話を聞こうとする姿勢があります。個を尊重し、干渉されないの、自



分のペースで制作できる。自分が本当に望むスタイルを形成するのに向いている街だと思います」と、自身の経験を交えて語った。

魚釣りが趣味なので、釣り場が近くにたくさんある大分市は、それだけで魅力的だという。自身も2児の父であるため、広い公園が多い大分市は子育てしやすいのも感じている。「郊外だと家賃も安くても間取りも広いから、明確なビジョンがあれば住みやすいと思いますよ」。

PROFILE
北村直登

1979年福岡県生まれ、画家。現在は大分市(南大分)にアトリエを構え、有名百貨店での催事やイベント、絵画デザインの提供など、活動の幅を全国に広げている。
<http://www.naotokitamura.com/>



室、グラウンドのほかに、小さな教室が8つ。廃校となって2年間そのままだった教室を仲間と一緒に掃除し、壁を塗って床を張り、眠っていた学校にアトリエとして新しい命を吹き込んだ。山の中ながら、大分市中心部から車で40分ほど、大分市内の自宅からも15分という近さも気に入っているという。

学校を管理するのは由布市だが、古くから地域に根付いた施設のため、地元の人たちの同意を得ることが必須だった。「地域の会合に向いて、思いを伝えて、作品を見てもらって…。人のつながりがあったこともあり、快く受け入れてもらえました」。

それ以降は地域の人々が何かと気にかけてくれるようになり、2

人も、地元の盆踊りやゲートボール、草刈り、飲み会など積極的に参加し、コミュニケーションを図っている。年に1回、夏休みにアトリエを開放して行うイベントでは、近所のおじちゃんたちがスタッフとして参加してくれるという。ちなみにこのイベントには、毎回350人ほどが集まり、普段は静かな地区が驚くほど活気づく。

廃校を利用することについて、「古くて広いので冬はとても寒いです。あと、自然がいっぱいなので虫が多い…(笑)。でも、それ以外で困ったことはないですね。家賃も安いし。スタートはイラストレーター。画家だった2人だが、アトリエを構え、本当にやりたいこと＝絵本作家を目指し、東京の出版社で売



大分から全国、アジアへ。廃校から生まれた絵本作家。

九州でも数少ない絵本作家として活動する、ザ・キャビンカンパニー。阿部健太郎さんと吉岡紗希さんからなる2人組ユニットで、2人は大学時代の同級生であり、1歳の娘を持つ夫婦でもある。彼らの活動を語る上で外せないキーワードは、「廃校」だ。大学卒業以降、廃校を利用したアトリエで制作を続けている。

「きっかけは、廃校を使ったアトリエが出てくる映画を観たことでした。これまでの作品も展示できて、創作活動も行える場所。実際に、大学の先輩が母校であるこの小学校でワークショップを行ったのを見て憧れました。それから自分たちで役所に問い合わせたりして、廃校を探し始めました」。

2人のアトリエは、大分市に隣接する由布市挾間町にある旧石城西部小学校で、決め手となったのは、サイズと距離感だった。体育館と給食



り込みを行うなどした結果、2014年には念願の絵本作家デビューを果たした。その後は3年間で14冊と、ハイペースで新作を発表し、展覧会を行った中国をはじめ、韓国、台湾でも翻訳されるまでに。現在も県内外からイベントの話がひっきりなしで、創作活動の合間を縫って、サイン会や原画展、読み聞かせ会、ワークショップなど、大分から全国へ、忙しく飛び回っている。

「大分で生活しているの、土地の色」が作品に反映されているようです。東京でも九州在住ということで応援してもらえますし、大分は行政と取り組む機会がとて多く、みんなでアイデアを出し合っで街を盛り上げる、まさにアトリエで街おこしをしている感覚が楽しめます。やる気さえあれば、チャンスはいっぱいある街ですね!」。



PROFILE
ザ・キャビンカンパニー
1989年由布市生まれの阿部健太郎さんと、1988年大分市生まれの吉岡紗希さんからなる絵本作家ユニット。2016年に生まれた長女と3人で、大分市に暮らす。
<http://cabin8cabin.web.fc2.com/>



「大学卒業後、本格的に創作活動をしだすと、作品がどんどん小さくなるんですよ。作る場所がないから。美術教育を学ぶため、地元長崎市から大分市内の大学に進学したKanaさんは、卒業後小学校の非常勤講師の傍ら、イラストレーター＆クレイ作家として、粘土でアクセサリなどの小さな作品を作り続け

た。そのうちモチーフが動物になり、現在のソフトスカルプチュア(柔らかい彫刻)へと移行した。『最初は自宅で作っていたので、玄関を出るか否かで作品のサイズが決まっていた笑。でも立体を作りだすと、『大きいものはカッコイイ!』と思うようになり、もつと

立体作品を作る作家にとって、とても便利な街ですね。



PROFILE
Kana
1983年長崎県生まれ、現代美術家。布や糸などの柔らかく可塑性のある素材を使用したソフトスカルプチュアを制作。大分市にて、マネージャーを務める夫と2人暮らし。
<http://kanapecori.jp/>



Kana



「世界中に1100カ所以上ある『FabLab』は、デジタルからアナログまで、多様な工作機械を備えた実践的な市民工房のネットワークである。豊住大輔さんがアメリカ人のプログラマー、ステイブ・ヴェルテマさんと2人で運営する『Fab Lab Oita』は、元々県の委託事業としてスタートしたが、事業終了後、

「大分から新しいものをつくる、アイデア湧出の場」として引き継いだ。公共交通機関の利便性を重視したという移転先は、大分市中心部。駅に近いビルの3階に構えたこともあり、学生がふらりと訪れ、作業やお喋りをして帰っていくという。『街なかでも、2階以上になれば

入り込んでしまえば居心地のいい場所ですよ。



Fab Lab Oita



PROFILE
豊住 大輔
1981年大分市生まれ、県外の大学を卒業後大分市に戻り、2014年県の事業として『Fab Lab Oita』をスタート。独立後もワークショップなどを積極的にに行い、ものづくりの楽しさを伝えている。
<http://www.faboita.org/>

意外と家賃は安いところもありますよ」と豊住さん。以前BARだった空間にはその名残と共に、3Dプリンターやレーザー加工機などの工作機械が並ぶ。
大分のアートシーンについて、「多くのコミュニティがあり、様々なイベントが行われているので、よそから来た人でも入り込みやすいと思います。飲んですぐ仲良くなれますよ(笑)」と語る。『Fab Lab Oita』も毎週金曜の19時からを、1コインで、持ち寄りのお酒を飲みながら誰でも情報交換できる場として開放している。この時間は機材を無料で使えるので、制作目当ての学生に混じって企業の人や学校の先生、家族連れなどが集う不思議な空間だ。そこで新たな交流が生まれ、やがてものづくりへとつながっていく。『大分のもづくりの今』が見える、貴重な場所の一つである。



まちなかアートスポット

大分市内には、県立美術館から景色に溶け込む作品まで、アートなスポットがたくさんあります。その主なスポットを紹介します。

2015年4月にオープンした『大分県立美術館』は、OPAM(オーパム)の愛称で親しまれています。

“出会いと五感のミュージアム”をコンセプトに、大分ゆかりの作家の作品を中心にしたコレクション展と、国際的な視野に立った自主企画展、様々なワークショップやレクチャーなどを開催。建築界のノーベル賞と言われる米ブリッカラー賞を受けた、世界的建築家・坂茂(ばんしげる)設計の建物は、大分の誇る伝統工芸の竹工芸をイメージさせる外観と、開閉可能なガラス水平折戸が印象的です。ミュージアムショップやカフェも併設し、ゆっくりとした時間を過ごせます。



大分県立美術館
《工芸を超える現代三人衆》
徳丸鏡子(陶)、碓崎真理子(陶)、
高橋禎彦(ガラス)
大分市寿町2-1
TEL 097-533-4500
アクセス JR大分駅南中央口から徒歩約15分
大分ぎゃんぱす「オアシスひろば前
(県立美術館南)」下車、徒歩1分



マルセル・ワンダース《コラシアン・ガーデン・スピリット》2015年



Shinpei Arima

“ちょうどいい都市感”は移住向きだと思います。

「スギコダマ」は、スペースとして手触りと柔らかいフォルムが特長の、スギの木生まれのオブジェだ。このスギコダマを制作する造形作家の有馬晋平さんは、出身は佐賀県だが大学から大分市で暮らすので、もう人生の半分以上を大分で過ごしているという。

大分市について、ちょうどいい都市感だと語る。「生活には事欠かないし、自然も多くてちよつと郊外に行くくと、程よい田舎の雰囲気も楽しめます」。

大学院時代から子ども向けのワークショップを行いながら、作家としての道を模索していた。そんなある日、材木店で出会った一枚のスギ板の美しさに心を奪われ、スギコダマの制作が始まった。「これまで目にしてきた杉は樹齢50〜60年ほどだったんですが、出会ったのは数百年のスギで、年数を重



ねた木目(年輪)が繊細で美しく、同じ杉とは思えないほどでした」。

大分市白木に工房を構えて9年、現在は東京、大阪をはじめ、2015年にはパリ、2018年にはオランダで作品展を行う予定など、活動の中心は県外だという。「大分市は交通の便もいいので、県外を販路にするにも拠点になりやすい場所だと思います。それと極端に田舎ではないので、都市部からの移住でもあまり覚悟がいらなというか(笑)」。

九州の市場に出向き、自ら原木を購入するという有馬さん。「明治頃に植えられた巨木は大分、熊本産が多いんですね。たまたまですが、これも何かの縁なのかなと思います」。



PROFILE 有馬 晋平

1979年佐賀県生まれ、造形作家。「スギコダマ」をはじめとしたスギを素材とした作品を制作する。大分市在住、1児の父。

<http://sugikodama.blog61.fc2.com/>

大分市美術館

屋外に設置されている巨大なゾウのオブジェ、安藤泉（あんどういずみ）の「遊星散歩」がシンボルとなっている『大分市美術館』。JR大分駅の南側に位置する小高い丘のてっぺん、自然豊かな上野丘子どものもり公園の中にあり、大分市街地を一望できる眺望も楽しめます。館内では田能村竹田や福田平八郎、高山辰雄ら大分にゆかりのある芸術家たちの

コレクションの展示のほか、大分の若手アーティストから世界で活躍する芸術家まで、幅広い特別展を年間を通して開催しています。

大分市美術館

大分市上野865
TEL 097-554-5800

アクセス JR大分駅上野の森口から徒歩約20分
大分きゃんばす「大分市美術館」下車すぐ



アートプラザ

大分市出身の世界的建築家・磯崎新（いそざきあらた）が設計した『アートプラザ』。芸術文化の複合施設として1階、2階には市民ギャラリーや美術創作活動の場が設けられ、3階には磯崎新がこれまで手がけた世界各地の建築作品の模型や、貴重な資料を常設展示しています。2階にあるミュージアムショップでは、大分を拠点に、全国的な活躍をみせる若手アーティストの作品を販売。建物も展示もショップも併せて楽しめます。

アートプラザ

大分市荷揚町3-31
TEL 097-538-5000

アクセス JR大分駅内中央口から徒歩約10分
大分きゃんばす「大分市役所合同新聞社前」下車、徒歩2分

おおいたトイレナール

2015年、中心市街地のトイレを舞台に開催された、世界でもほかに例のないアートフェスティバル。16組のアーティストによってアートに変身したトイレ作品は、『ふないアクアパーク』にある「メルティング・ドリーム」や「若草公園」の「トイレのラクガキ」など、現在も鑑賞・使用することができます。



photo: yasunori takeuchi

メルティング・ドリーム
／ふないアクアパーク（府内町）

マッテルモン

各地で「門」をテーマにオブジェを制作している、絵本作家・荒井良二（あらいりょうじ）の作品。西大分の『かんたん港園』に残る、以前フェリー乗り場で使われていた赤い可動橋門構の上に、ちょこんと座る立体作品「マッテルモン」。高崎山・うみたまご芝生広場にある「たいようをすいこむモン」と共に、多くの人に愛されています。



マッテルモン／かんたん港園（生石）

まちなか彫刻

中心市街地にある『遊歩公園』や『中央通り』など、大分市内には多くの屋外彫刻が点在しています。大友宗麟公像やフランシスコ・ザビエル像のほか、音楽、演劇、医療といった西洋文化発祥の記念像、大分県出身の彫刻家・朝倉文夫をはじめ、大分にゆかりのある作家の作品など様々です。これらは、大分の文化と歴史を物語る貴重な文化遺産です。



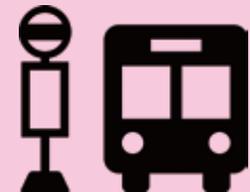
西洋音楽発祥記念碑／県庁前広場（大手町）

大分市のアート巡りに便利！ 大分きゃんばす 100円循環バス



中心市街地循環バス「大分きゃんばす」
JR大分駅やまちなか、県立美術館、市美術館、アートプラザなどを100円（1000円）で結びます。さらに、1日乗車券200円※を県立または市美術館の窓口で提示すると観覧料が割引に。平日は8時～17時45分まで、土・日曜日、祝日は9時45分～、それぞれ約30分～60分間隔で運行します。

車窓から眺める景色も堪能しながら、大分のアートシーンを感じてみませんか。



大分市都市交通対策課
☎097-537-5969

※1日乗車券は大分バス総合案内所または大分交通大分駅前バスセンターで購入できます。

関あじ・関さば
佐賀関で一本釣りされる「関あじ」「関さば」は、ブランド魚として全国的に人気です。



早吸日女(はやすひめ)神社
佐賀関のシンボル「関の権現様」として親しまれている神社。全国でも珍しい「蛸断ち祈願」が有名です。



関埼灯台
豊予海峡を見下ろす位置にあり、明治期に築造された白亜の灯台は県内最古のものです。



DATA | 2017年11月末現在
面積/49.58km²
人口/8,867人(男性4,134人、女性4,733人)
世帯数/4,474世帯
特産/関あじ、関さば、クロメ、甘夏



【佐賀関地区】

ACCESS | 大分市内から車で約45分
JR 大分駅⇒日豊本線・幸崎駅下車、佐賀関行きバスに乗り換え
バス 大分駅⇒大分バス「佐賀関」行き
高速道路 最寄のIC/東九州自動車道「大分宮河内IC」



徳応寺
幕末期に、坂本龍馬、勝海舟の一行がこの寺を訪れ宿泊した記録が残ります。



高島とうみねこ
神武天皇の伝説も有名な、佐賀関港から15分ほどの離島。ウミネコの営巣地で、断崖にはウミネコが並ぶ姿が見られます。



移住
おすすめ
エリア
1

**歴史と海のまち
佐賀関地区**

大分市の東端に位置し、半島の先端部は愛媛県の佐田岬半島と相対する佐賀関。その歴史は古く、豊予海峡に浮かぶ離島・高島には、神武天皇が東征の際に立ち寄られたと伝えられます。また、長崎に向かう坂本龍馬と勝海舟が立ち寄った足跡も残ります。

昔から九州と四国、瀬戸内地域との交流が盛んな海上交通の要所で、現在も四国行のフェリーが就航。製錬所のある佐賀関港と、関あじ・関さばをはじめとした高品質な水産品の水揚げ港である佐賀関漁港とを中心とする地区は、まさに海辺の町と云った雰囲気です。



関崎海星館
佐賀関の岬に建つ展望・天文施設。天体観測室では、昼は太陽や金星、明るい一等星などを、夜は季節の星々を観察できます。

佐賀関の風

大分市の東端にある佐賀関地区で創作活動を行うアーティストが語る、地域の特性や魅力。



地域おこし協力隊として佐賀関地区で活躍する、ねんど人形写真作家の渡邊和己さん。大分市出身で、地元の印刷会社で15年ほどカメラマンを務めた後、独立して横浜に移り、フリーのカメラマンとして活躍した。他のカメラマンとの差別化を図るために2008年から人形作りと撮影を始め、「横浜開港150周年」や古事記編纂(へんさん)1300年「神話博しまね」などで作品を発表するうちに、「いつか故郷・大分の伝承を制作したい」と思うようになった。その後縁あって、2016年から大分市地域おこし協力隊の文化芸術振興部門の担当として佐賀関地区に配属となり、地元の神話や民話を掘り起こし、ねんど人形でキャラクターを作って実際の伝承の地で撮影する活動を行っている。

大分に居た頃は特に意識していなかったという佐賀関の印象について、改めて渡邊さんに尋ねると、「何気ない景色が美しいです。逆光で水面が反射し、光の道のようになっている海を眺めていると、昔の人たちは光を追って船を進めたのかなあなど想像しますね」と語る。ほかに「とにかく魚が安くて新鮮!」着任が決まって一番嬉しかったのは、美味しい刺身が食べられることでした。佐賀関は愛媛県佐田岬と対峙し、強い潮流の速吸瀬戸(はやすい)のせいで、アジやサバなどの好漁場としても知られる。特に佐賀関で水揚げしたものは、大分県を代表するブランド魚「関あじ」「関さば」と呼ばれ、魚の旨い町として全国的にも有名だ。ほかに、毎年1月〜3月のみ収穫される海藻「クロメ」や、一尺屋地区で栽培されるミカンなど、「地元の食材の美味しさに気付いたのも、大分に帰って来てからでした」。



宝剣タコ

普段は佐賀関にある「地域おこし協力隊工房」にて創作活動を行っている。



大友宗麟や立花道雪、佐賀関のお地藏さんなど。

まつ毛1本作るのに15分の緻密な作業。パーツごとに重さを記録し、つなぎ合わせる。この日作っていたのは、佐賀関『椎根津彦神社』のシネツヒコの人形。

PROFILE 渡邊 和己

1961年大分市生まれ。地元の印刷会社のカメラマンとして実績を積んだ後、2002年から横浜でフリーのカメラマンとして活躍。2016年8月に地域おこし協力隊員として大分市へUターンした。

<http://www.nendonoshashin.com/>



高鳥の名の由来は、神話の時代に「高貴な方」であるカムヤマトイハレビコノミコト(神武天皇)が立ち寄られたことからだろう。



佐賀関の木佐上地区に伝わる「鬼八伝説」をイメージ。



後藤家住宅

18世紀中頃～後半に建てられた、茅葺寄棟造りの大分市最古の民家。国重要文化財。



大分川ダム(ななせダム)

2019年度の完成を目指す。ダムを一望できる場所には交流拠点「(仮称)道の駅のつはる」が完成予定です。



DATA | 2017年11月末現在

面積/90.83km²
人口/4,418人(男性2,114人、女性2,304人)
世帯数/2,077世帯
特産/ニラ、豊の七瀬柿、シイタケ

ACCESS | 大分市内から車で約40分

バス 大分駅⇒大分バス「野津原」行き
高速道路 最寄のIC/東九州自動車道「大分光吉IC」



【野津原地区】

太田磨崖仏

太田地区にある色鮮やかな磨崖仏。「火防地藏」とも呼ばれています。



丸山八幡社

肥後熊本城主の加藤清正が、慶長15年に参勤交代の安全を祈願して、菅原道真を祀る天満社として創建しました。



のつはる寿司

アジやサバなどの魚を甘酢漬けのキャベツで巻いたサッパリとしたお寿司で、野津原の郷土料理。



今市石畳

肥後藩主や豊後岡藩主が参勤交代で利用した石畳道。坂本龍馬や勝海舟も通ったといわれています。

野津原地区の南側には、宇曾嶽、障子岳、御座ヶ岳、鑑ヶ岳等の600mから800m級の山々が連なり、七瀬川が地区の中心を流れています。江戸時代、参勤交代の際に利用された豊後鶴崎と肥後熊本を結ぶ肥後(豊後)往還の石畳道「肥後街道」が有名です。「今市石畳」と呼ばれ、幅2mの石畳が660mほど現存します。通り沿いには、肥後細川侯の脇本陣や茶屋代官がありました。

大分県県民の森 平和森林公園

春には満開の桜、夏には辺り一面のラベンダー畑など、四季折々の景色が楽しめるスポット。また、気分をリフレッシュできる森林セラピー®もおおすすめです。



移住
おすすめ
エリア

2

参勤交代の石畳のまち
野津原地区



吉野鶏めし

鶏肉やゴボウの炊き込みご飯の一種で、大分市南部にある吉野地区の郷土料理。



戸次ごぼう

西日本有数のゴボウの産地。大分市の名産で風味豊かです。



戸次本町の町並み

大野川沿いの交通の要衝地として、日向街道沿いの在町だった戸次。本町周辺には、江戸時代の風情を留める建物や町並みが残っています。



移住
おすすめ
エリア

3

歴史と文化の香るまち
大南地区

大南地区は、古代より交通の要衝として重視され、江戸時代には城下町と対置される在郷の中心として形成された、数少ない在町です。

特に戸次本町で昔、大庄屋であった帆足家は、豊後南面の大家「田能村竹田」や儒学者「頼山陽」など多くの文人墨客と親交が深く、当地区は文化の香る農村商易のまちとして栄えました。このエリアには、江戸時代末期から戦前にかけて建てられた貴重な建築物が現存し、地区固有の伝統的な文化が今も息づいています。

古民家探訪

大分市内に陶房「多宝窯」を持つ陶芸家の千種さんが営むカフェギャラリー。築140年の古民家に一目ぼれし、戸次に開業して7年。「近所の人が庭で育てた花を届けてくれたり、声を掛けてくれるなど、さり気なく見守ってくれているのも居心地がいい」と千種さん。景観保全に力を入れているエリアなので、古い町並みはもちろん道路状況も改善されるなど、営業する点でメリッとも感じているそう。

◀2階のこの立派な梁が決め手となったとか。現在はギャラリーとして利用。



▲そのままの佇まいを残す外観。

Art Café ときのたね

大分市中戸次 4358

☎090-9577-1345



帆足本家酒造蔵の内部

酒造蔵には樽などの道具が展示され、酒造りについて学べます。



帆足本家酒造蔵

江戸末期から明治にかけて建築され、昭和47年まで酒造りに使われた木造2階建ての酒蔵です。大分市指定有形文化財。

大分市での暮らしを応援



就労支援

「おおいた産業人財センター」では、大分県内へのUIJターンを希望する方の就職を支援しています。センターのホームページから求職者の情報を登録していただくと、大分市UIJターン相談員が就職に関する様々な相談に応じ、企業情報や求人情報などを提供します。また、併設する「ジョブカフェおおいた」では、概ね40歳未満の求職者を対象に、就職に関する支援を行っています。電話でのお問い合わせもできますので、お気軽にご相談ください。

● 〇おおいた産業人財センター ☎097-533-2631
● 〇ジョブカフェおおいた ☎097-533-8878

大分市移住応援サイト

大分市への移住に興味を持っていただくため、本市の移住支援や住みやすさ等の情報を提供する「大分市移住応援サイト」を開設しています。

このサイトでは、移住の際に参考となる住まいや仕事の情報に加え、子育て支援、高齢者支援等に関する情報などについても紹介しています。さらに、「移住に関するQ&A」や、大分市の「ミニ情報」、先輩移住者のインタビューなど、移住の検討に役立つ情報サイトとなっています。

● <http://www.oitacity-iju.jp/>
● 〇大分市商工労政課 ☎097-537-5964



ホームページ(イメージ)

start oita!



起業支援

JR大分駅の近くに位置する「産業活性化プラザ」では、創業や経営などに関する相談や助言を無料で専門家から受けられるなど、サポート体制が充実しています。また、これから創業しようとする人が安価な使用料で入居することができる「創業支援ルーム」があります。

● 〇大分市産業活性化プラザ (J:COMホルトホール大分内)
☎097-576-8879

居住支援

● 大分市住み替え情報バンク

大分市内の空き家・空き地の売却や賃貸を希望する所有者などから寄せられた物件の情報を当バンクに登録し、大分市ホームページで情報提供しています。

● 大分市移住者居住支援事業補助金

大分県外から大分市内へ、自己の意思で転入する場合に、住宅の新築・購入・賃貸や引越し費用の一部を補助します。

● ※要件や補助金額等について詳しくはお問い合わせください。
● 〇大分市住宅課 ☎097-585-6012



大分市でのアート活動をサポート

海が見える学校跡地をアトリエに！ 旧大志生木小学校

2016年に閉校となった佐賀関の旧大志生木小学校の一部を今後、複数のアーティストのアトリエや地域の交流拠点等としてモデル的に使用する予定です。興味のある方は、ぜひ一度、お問い合わせください。

☎大分市企画課 ☎097-537-5603



空家等をアトリエに！改修経費を支援します

空家等をアトリエなどに転用するための改修工事を行う場合、その対象経費の一部を補助する「大分市空家等改修支援事業」を行っています。

※要件や補助金額等について詳しくはお問い合わせください。
☎大分市住宅課 ☎097-585-6012

新進気鋭の若手アーティストの企画展 大分市美術館特別展「CIAO！」

2016年からスタートした、大分市美術館の特別展「CIAO（チャオ）！」。毎年、若手を中心に、大分で斬新かつ個性的な活動を続けるアーティストに焦点を当て、大分の美術の新たな魅力を紹介しています。このように大分市美術館では、大分県内を拠点に活躍する若手アーティストを発掘し、発表する場を積極的に設けています。

☎大分市美術館 ☎097-554-5800



アーティストを応援する街 大分市

大分市ではこれまでも、若手アーティストに焦点を当てた展覧会の開催や各種パンフレットへのデザイン起用など、アーティストを支援する様々な取組を行っています。また、今回新たにアーティストの移住を後押しする取組として、「アートレジオン推進事業」をスタートしました。

アート移住を支援！アートレジオン推進事業

アーティストの移住支援及びアートによる地域の活性化に取り組んでいます。

おおいたアート移住見学ツアー



※(上) サ・キャンカンパニーのアトリエ
(下) 北村直登氏

大分への移住やアート活動に興味のある方を対象に、在住アーティストのアトリエ見学や意見交換、地域の魅力を紹介するバスツアーを開催しています。

学校跡地でアートイベント 開校！大志生木こどもアート学校



※平成29年8月に開催したイベントの様子

佐賀関の旧大志生木小学校を舞台にしたアートイベントを2017年から開始。若手アーティストによる親子ワークショップや作品の展示・販売、小学校の歴史展、地元産品の販売等を地元との協力のもと行います。

☎大分市企画課 ☎097-537-5603

大分市の日常生活 Q&A

Q 大分市の気候は？

A 年間を通して日照時間も長く、過ごしやすい気候です。しかし冬には、まれに雪が積もることも。

Q 仕事を探すなら？

A 自然豊かで、産業も盛んな大分市は、働く場所もたくさん！

大分での就職、若者の就職なら！

- ・ ハローワーク大分
☎097-538-8609
- ・ おおいた産業人財センター
☎097-533-2631
- ・ ジョブカフェおおいた
☎097-533-8878

起業希望なら！

- ・ 大分市産業活性化プラザ
☎097-576-8879
- ・ 大分市創業経営支援課
☎097-537-7014

農業希望なら！

- ・ 大分市農政課
☎097-537-5628

林業・漁業希望なら！

- ・ 大分市林業水産課
☎097-585-6028



大分県立図書館

Q 家賃はどれくらい？

A 1坪当たりの民営賃貸住宅家賃は、東京都の8,631円に比べ、大分市は3,639円と約2/5!! これを基に一般的な3DK賃貸住宅(18坪)で算出すると、東京都では約155,000円ですが、大分市では約65,000円になります。

※出典/総務省統計局 2017年社会生活統計指標

Q 教育環境は？

A 大分市内には、小学校は61校、中学校は34校、高等学校は20校と、公立や私立の学校があります*。図書館は『大分県立図書館』や『大分市民図書館』などがあり、美術館のほかにも、歴史を学べる『大分市歴史資料館』や『大友氏遺跡体験学習館』『海部古墳資料館』などが揃います。

※2017年4月時点



大分市歴史資料館

Q ご当地グルメは？

A おすすめは、「とり天」と「だんご汁」の二大郷土料理。カリッ、ふわっと、お店ごとの衣の食感も楽しめる「とり天」は、天つゆではなく酢醤油とからしでいただきます。

麵状に手延べしただんごに、シタケやゴボウなどの野菜を加えた味噌汁立ての「だんご汁」は、あつたかい家庭の味です。そのほか、「とりめし」や「りゅうきゅう」「にら豚」など、美味しいものがいっぱい！スーパーに並ぶ刺身も安く新鮮です。



とり天



だんご汁

Q どんな言葉を使う？

A 九州の中では、あまりイントネーションが強くないといわれ、中国・四国地方の方言と似ている部分も。独特の方言としては、「なしか=なぜ」「ええらしい=かわいい」「よだきい=だるい」など。まずは「しんけん=とても」を覚えて、大分市でごはんを食べて「しんけん美味しい!」と言ってみましょう。

Q 買い物はどの辺で？

A 大分市街地には、百貨店や駅ビルのほかに、府内五番街やサンサン通りなどの商店街、セントポルタ中央町やギャラリーア竹町といったアーケード街もあります。さらに郊外にも『パークプレイス大分』『トキハわさだタウン』といった大型商業施設も充実しています。



パークプレイス大分

Q 休日の過ごし方は？

A 街なかでのショッピングや、豊かな自然を満喫すべく山や海など郊外に出掛けてみましょう。魚釣りができるスポットもいっぱいです。リラックス重視なら、地下600～800mの深層に貯留する深層熱水の「大深度地熱温泉」を。アクティブ派なら、国内トップクラスで活躍するスポーツチームの観戦もおすすめです。